

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ルノーと日産のアライアンス

ルノーと日産のアライアンス(提携)は、幅広い分野で戦略的に協力する独自のパートナーシップです。1999年の締結以来、日産はアライアンスを通じて展開地域をグローバルに広げ、経済規模においても大きく飛躍してきました。

2016年のルノー・日産アライアンスの自動車販売台数は996万台*。世界で販売されたクルマのうち、およそ9台に1台をアライアンス・ブランドが占め、アライアンスは世界の自動車グループのトップ4に入っています。現在、ニッサン、インフィニティ、ダットサン、ヴェヌーシア、ルノー、ルノー・サムスン、ミツビシ、ダチア、ラーダ(アフトワズ社)の9ブランドを展開しています。

▶ 露アフトワズ社、三菱自動車の販売台数を含む



アライアンスのビジョン

ルノー・日産アライアンスは、自動車業界の中で最も長期間にわたって継続している提携であり、異なる文化と融合しながら最大の効果を生み出しています。2017年に18年目に突入したこの独特なパートナーシップは、実際的かつ柔軟なもので、常に新たなプロジェクトに取り組みながら新しいパートナーを受け入れて世界中に拡大してきました。ドイツのダイムラーAG、中国での合弁会社である東風汽車有限公司などとも幅広い協力関係を実現しています。また、ロシア国営企業ロステック社(前ロシアン・テクノロジー社)との合弁会社を通じて、ロシア最大の自動車メーカーであるアフトワズ社の株式の過半数を保有しています。

アライアンスの基本的な考え方は、それぞれのブランド・アイデンティティや企業文化を尊重しつつ、株式の相互保有を通して互いの収益向上に積極的に貢献するというものです。現在ルノーは日産株の43.4%、日産はルノー株の15%を保有しています。

2014年、ルノー・日産アライアンスは、業績を向上させ、シナジーを加速させるために、研究・開発、生産技術・物流、購買、人事の主要4機能を

統合しました。各機能はそれぞれのアライアンス副社長が統括します。これらの機能の統合により、アライアンスは2015年に43億ユーロ以上であったシナジー効果を、2018年には55億ユーロにまで増加させることを見込んでいます。

▶▶ website
ルノー・日産アライアンスに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

アライアンスの3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの項目において、世界の自動車メーカーの中でトップ3に入ることを目指しています。

- 1 技術革新
- 2 収益および営業利益
- 3 製品品質および顧客満足度

革新的技術のリーダーに

アライアンスは、「ゼロ・エミッション車」「コネクテッド・カー」「自動運転車」の3つを重要な戦略の柱に掲げ、技術面で世界の自動車業界をけん引しています。

ゼロ・エミッションモビリティのグローバルリーダーであるアライアンスは、2010年12月にアライアンス初の電気自動車(EV)である「日産リーフ」を発売したのに続いて、ルノー「ゾエ」を発売。以来、世界で累

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

計43万台以上のEVを販売してきました。「日産リーフ」は現在に至るまで、世界で最も多く販売されているEVであり、ルノー「ゾエ」は欧州を代表するEVとなっています。

またコネクテッド・カーのイニシアティブをリードしていくため、2016年、コネクテッド・カーおよびモビリティサービス担当のアライアンス専務執行役員として、ITに知見のあるオギ・レドジクが就任しました。アライアンスは最新のテクノロジーを搭載した量販車を手ごろな価格で提供することを目指していきます。またソフトウェアを自社で開発するための人財を確保し、高い技術を持つ企業と提携して、コネクテッド・カーとモビリティサービスの拡大を加速していきます。

同じく2016年、アライアンスは2020年までに自動運転技術を10モデル以上に順次搭載する計画も発表しました。

「持続可能な開発のための世界経済人会議」への参画

ルノー・日産アライアンスは「持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）」に参画しています。WBCSDは先進的な企業で構成される国際組織で、経済、社会、環境の3分野において持続可能な将来の構築を目指し、世界の産業界をけん引しています。

三菱自動車との提携

2016年10月20日、日産が三菱自動車工業株式会社の発行済み株式の34%を取得して同社の筆頭株主となったことで、ルノー、日産、三菱自動車によるアライアンスはグローバルな自動車業界の新たな勢力となりました。

今後日産は、共同購買、現地化の推進、生産拠点の共用、共通プラットフォームの開発、新技術の開発分担、成長市場と新興国市場におけるプレゼンス拡大といった分野でのシナジーを通じて成長へのポテンシャルを追究していきます。また、これらの取り組みを通じて、アライアンスは生産能力の向上と革新的な技術の開発を推進し、あらゆるセグメントにおいてお客さまのニーズに応えるクルマを提供することを目指します。